

I. 新年のご挨拶

日本内燃機関連合会
会長 米澤 克夫 *

新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、日本内燃機関連合会（日内連）を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

一昨年7月に会長を拝命し、1年半が経過しましたが、おかげさまで会員各社、各団体の皆様のご支援により日内連の活動を滞りなく進めることができたことに御礼申し上げます。

昨年はナショナリズム、自国第一主義に基づく政策を展開する指導者、政府が多くで支持され、台頭し、それが米中貿易戦争のようなそれ以前のグローバル経済展開と逆行する動きが目立つ年でした。その中で、産業界はこのような経済情勢の変化に機動的に対応できるように備えることが重要視されるようになっていきます。

船用機関については国内において、労働力不足、働き方改革を受けて、長距離トラック輸送から鉄道、船舶輸送へのモーダルシフトが進展し、この分野での船舶需要の高まりが期待される一方で、グローバル経済の変化により大型船の需要の高まりは期待できず、中韓造船所も操業確保に苦しみ、重工各社の造船所再編が進んでいます。陸用機関では、再生可能エネルギーの導入が進み、発電用を中心に厳しい事業環境が継続しています。

その中でDF機関開発、高効率化など地道な技術開発が継続され、IoT技術活用によるユーザ、メーカーが一体になってエンジンの効率的運用につながるサービス事業が進展するなど内燃機関における日本の技術的優位は引き続き維持されていると感じています。

また、昨年は日本で豪雨、大型台風、猛暑、関東地区では暖冬で木枯らしが記録されないなど異常気象が目立ち、温暖化ガス排出増大との因果関係が実感されるようになってきており、日本の省エネ技術や高効率化技術などに対する期待が高まっていると感じます。

昨年は平昌冬季オリンピック、ロシアサッカーのワールドカップにおいて多くの日本選手が活躍し、2020年の東京オリンピックに向けて期待が膨らむ年でもありました。さらに、年末には大阪万博開催が決定しました。日内連ではCIMACメンバー国が持ち回りで開催するCIMAC CASCADES（若手技術者のための論文発表会）を秋に会員各社、関係者のご協力により無事、開催することができました。本年はCIMACバンクーバー大会の年で、日本からの論文数も例年通りであり、内燃機関業界における日本のリーダーシップを発揮できるものと期待しています。引き続き、CIMACとの連携を図りISO・JIS関連の標準化事業を通して会員の皆様のお役に立つことができるよう尽力して参りますので関係各位のご支援、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

最後に、本年が会員の皆様とご家族にとり、健康で実りの多い年となることを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。



* (株) IHI 執行役員